

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00949

研究課題名(和文) 将軍徳川綱吉による山城国善峰寺・金蔵寺再興と地域社会

研究課題名(英文) Reconstruction of Yoshimine Temple and Konzoji Temple in Yamashiro Province by Shogun Tsunayoshi and local communities

研究代表者

母利 美和 (MORI, YOSHIKAZU)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：60367951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では善峯寺所蔵文書6800点の全容把握を中心にすすめ、約6800点の全体像を解明した。その結果、元禄～宝永期の善峯寺復興に関する桂昌院をはじめ本庄家、本庄家との関係から仙台藩御典医となった岡村道仙との往復書簡が約3000点と全体の4割を占めること、戦国末期から近世にわたる寺務運営を物語る寺領(坊領)田畑山林関係文書、本山との関係文書、元禄復興期以降記録された寺内の七坊による輪番日記、法会のほか年中儀礼の執行・財政関係文書、寺領村の領知・人別関係文書、十輪寺・玄松寺などの末寺関係文書、堂舎維持のための修復勸進・開帳関係文書など、戦国期から明治初期に至る豊富な史料群であることが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究により、善峯寺文書の全目録と画像データにより全容把握が可能となった。元禄から宝永期の徳川綱吉による寺院復興における寺院・幕府の関係の具体像と、そこから派生する、本末関係への影響、寺院内部の組織、寺領や門前地域のみならず寺家の人々との関係する地域社会への影響の解明につながる基礎史料が得られたことにより、今後当該期の幕府による宗教制作を再検討する契機となるであろう。

また、室町時代後期から明治維新まで、一天台宗寺院の3～4世紀にわたる寺領・財政などの史料も豊富であり、全目録の完成により、多方面での研究活用が可能となる。

研究成果の概要(英文)：This study elucidated the entirety of the 6,800 documents in the Yoshimine Temple(善峯寺) collection.

The research revealed that, this is a rich collection of historical documents related to temple management from the Sengoku(戦国) period to Meiji(明治) era, including documents about temple administration and temple estate management, relations between other temples, diaries of temples, and annual events.

Especially, about 3,000 of them are correspondence related to the restoration of Yoshimine Temple from the Genroku(元禄) to Hōei(宝永) periods. These letters were exchanged between Tsunayoshi's mother Keishoin(桂昌院), her family of the Honjo(本庄家), and Okamura Dosen(岡村道仙), who was related to the family.

研究分野：日本近世史

キーワード：徳川綱吉 桂昌院 本庄宗資 寺院復興 地域社会 岡村道仙 善峯寺

1. 研究開始当初の背景

従来から存在が知られていた善峯寺文書は、部分的に調査が実施され、研究活用されてきた。桂昌院との関係性についても、善峯寺と桂昌院の出生談が強調されてきたが、金蔵寺との「両寺」再興の意義は、出生談のみでは説明できないことは明らかである。本研究では、綱吉政権期の寺院政策の意義を再検討することが第一義的な成果となると予想されるが、善峯寺文書は元禄期から明治10年代までの事務日記等が伝存しており、全史料の調査成果による分類目録の作成・公開により、近世前期から明治期に至る近世寺院運営の実態解明、当該地域社会と寺院との関係研究など、多様な研究が可能となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、17世紀末～18世紀初頭、5代将軍徳川綱吉の時代における寺院復興などの宗教政策と、その後の地域社会との関係性を分析するため、綱吉の生母桂昌院が尽力し復興させた京都市西京区大原野の善峯寺に伝存する古文書の実態調査・研究、および同時に「両寺」として桂昌院により復興された金蔵寺との関係を解明することにある。とりわけ、善峯寺中興由緒書簡13冊をはじめとする中興関係史料や近世前期から近代にいたる日記・触留等を分析することで以下の解明を目的とする。

- (1)善峯寺文書の全容把握、寺院史料の構造分析による寺院内構造の解明。
- (2)善峯寺と密接な関係にある金蔵寺の史料調査による寺院間関係、本山との関係解明。
- (3)「両寺」再興に関与した桂昌院や柳沢吉保との関係解明と、元禄期の綱吉政権における寺院政策意義の再検討。
- (4)「両寺」再興による寺院運営の実態と地域社会との関係解明。

3. 研究の方法

本研究では、まず第一段階に善峯寺伝来の古文書の全容把握と金蔵寺の伝来史料の調査による関係古文書の分析により文書構造の検討を通じて、寺院内構造・地域寺院の相互関係の把握をおこなうこととした。この作業を前提として第二段階として、近世初期から伝存する一紙文書類、寺院復興に関わる桂昌院関係書状の分析による幕府寺院政策の再検討をおこなう。さらに第三段階で、寺院再興を期に作成された元禄期から伝存する寺務日記等の解読・翻刻により、寺院再興がもたらした地域社会との関係を明らかにすることとした。

2020年度は、(1)善峯寺伝来の古文書調査と(2)金蔵寺関係史料の概要調査を実施する。本研究では、2019年度に学内研究費で調書作成済みの善峯寺文書の一部約1500点について、史料の翻刻・分類作業を研究協力者と研究補助員によりすすめた。また研究代表者、研究協力者4人・調査補助員2人とともに現地調査をおこない、調査対象として重要な日記史料・桂昌院関係史料は膨大であるため、調査後の史料公開を前提に、本研究の経費によっても写真撮影を実施した。また金蔵寺の史料は古文書類が伝来しているとの情報は得ているが、まだ概要調査が実施できておらず、全体像がつかめていないので、2020年度に研究代表者、研究協力者4人・調査補助員2人とともに概要調査を実施し、次年度での調査計画を策定した。研究会運営は、研究代表者・研究協力者による研究会を年2回開催し、本研究課題の共有、各研究員の課題意識のもとに研究分担の検討をおこなった。史料翻刻・史料分類作業は、2019年度実施の調査に参加した大学院生を中心に、研究補助員を雇用し桂昌院関係史料と

元禄～宝永期の日記翻刻をおこない、2022年度から順次翻刻刊行開始した。

2021年度は、2020年度調査の結果得られた調査データ・画像データを各研究員が共有し分類作業、文書構造の分析をおこなった。その成果をもとに研究代表者・研究協力者による研究会を開催し、各研究員の課題意識のもとに研究分担をおこない史料分析をおこなった。

2022年度は最終年度であるが、2021年度の調査で大量(約2800点)に新たな史料が確認されたため、金蔵寺・柳沢文庫の補足調査を断念し、全史料の調書作成や史料撮影に調査作業を集中させることとした。また成果の公表については、史料全容の把握がまだ不十分であるため、研究会は継続したが、寺院復興に直接かかわる元禄から宝永期の日記史料等の翻刻・校訂作業をおこない、日記を継続して翻刻刊行することにした。

4. 研究成果

善峯寺文書は、16世紀末から明治初期のものだけでも総点数約6,800点を数え、当該期の天台宗寺院史料として質・量ともに貴重な資料群である。本研究の目的は、元禄期に徳川綱吉により全山復興された西山善峯寺に伝来する古文書の全容解明と、関係する金蔵寺や柳沢文庫の史料調査を平行して実施することにあつた。しかし、事前調査では約4000点を見込んでいた善峯寺文書が、調査過程で新たに確認された史料が徐々に増え、調査中に新たに発見された文書約2800点を加え、約6800点にのぼったこと、また金蔵寺にも調査依頼をお願いしたが、この研究期間では了解が得られなかったこと、コロナ感染の状況での柳沢文庫の史料調査が実施できなかったことにより、善峯寺所蔵文書の全容解明を目的とすることに変更し、3年間の調査により、一部をのぞきほぼ全体像を解明できた。

善峯寺文書は、本調査以前に宗教系大学・自治体などの調査が入っており、とくに室町から戦国期の古文書数十点や、一部の桂昌院関係文書が研究・展示に利用されてきたが、いずれも全容把握には至っていなかったため、本調査では、文書が保管されてきた「広間前土蔵」「本堂脇蔵」「寺宝館収蔵庫」に大分類し、収納容器ごとに台帳番号を付して全容調査を実施した。その結果、元禄期の善峯寺復興に関係する桂昌院をはじめ本庄家、本庄家との関係から仙台藩御典医となった岡村道仙との往復書簡が約3000点と全体の4割を占めること、戦国末期から近世にわたる寺務運営を物語る寺領(坊領)田畑山林関係文書、本山との関係文書、元禄復興期以降記録された寺内の七坊による輪番日記、法会のほか年中儀礼の執行・財政関係文書、寺領村の領知・人別関係文書、十輪寺・玄松寺などの末寺関係文書、堂舎維持のための修復勧進・開帳関係文書など、戦国期から明治初期に至る豊富な史料群であることが確認できた。これらの史料の本格的分析はこれからの課題であるが、現時点において善峯寺の復興は、地域社会や本末関係のバランス、本庄家との関係継続、その後の堂舎維持にも広範囲に影響を及ぼしていたことが明らかとなっている。研究期間中に全文書目録の刊行には至らなかったが、調査研究を継続し、2024年度には成果報告として全資料目録を刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 母利美和	4. 巻 第22号
2. 論文標題 史料紹介「善峯寺実相坊賢良日次」一元禄五年十一月から同七年十二月一	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 京都女子大学大学院文学研究科研究紀要史学編	6. 最初と最後の頁 93-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	秋元 せき (AKIMOTO SEKI) (20469208)	京都芸術大学・芸術学部・非常勤講師	
研究協力者	梅田 千尋 (UMEDA CHIHIRO) (90596199)	京都女子大学・文学部・教授	
研究協力者	野地 秀俊 (NOJI HIDETOSHI)	佛教大学・文学部・非常勤講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------